

## 第 13 回 中国経済史研究——近現代史研究を中心に

村上 衛（京都大学人文科学研究所）

### はじめに

- 立場
  - ・ 東洋史・中国史と経済史
  - ・ 華南海域史（村上 2013）：アヘン密輸・海賊・略奪・人身売買・国籍詐称  
→内地流通（羊毛）・格差問題
  - ・ 史料：イギリス外交文書 +  $\alpha$
- 本研究会との関連（レジュメより）
  - ・ 小嶋華津子「戦前・戦中の「ギルド」研究とその論点（2019.3.25）」
  - ・ 伊藤重聖「中国経済研究の系譜：主流と傍流、課題とインスピレーション（2019.7.10）」  
→東洋史の方に重点
- 本日の構成
  - ・ 戦前～戦後歴史学：社会経済史研究
  - ・ 衝撃（1980 年代～1990 年代前半）：明清史・アジア交易圏論
  - ・ 反応（1990 年代～）：中国近代経済史の進展
  - ・ 課題と展望

### 1 社会経済史研究

- 戦前の蓄積
  - ・ 京大東洋史学の開祖：桑原隲蔵『蒲寿庚の事蹟』。泉州のムスリム貿易商人の研究（桑原 1935）
  - ・ 中国経済の開祖：加藤繁の先駆的研究。土地制度、商業、貨幣、財政など主要なテーマ。  
（加藤：1952・1953）
- 戦後歴史学と論争（谷川 1993）
  - ・ マルクス主義の影響  
→時代区分論争（古代・中世・近世の区分：転換期は後漢～六朝・唐宋変革 or 唐宋変革・明清交替）→生産関係：奴隸制・農奴制・資本制
  - ・ 秦漢帝国論：奴隸制と農奴制、皇帝と小農民
  - ・ 六朝貴族制論：日本・西欧の中世封建社会との対比

- ・ 均田制：土地制度史。
- ・ 宋代農村社会：地主と佃戸（小作人）の関係。隷属関係？
- ・ 明清郷紳論：地主制。賦役制度。
- ・ 明清時期の商品生産：綿業。問屋制（←大塚理論）、地主制。
- ※ マルクス主義退潮とともに論争は急速に終息。前近代史の中心は明清社会経済史に
- 近代史研究
  - ・ 近代史は東洋史の対象外？
  - ・ 対外貿易・商品流通（衛藤 1968・田中 1973…）
  - ・ 工業化（波多野 1961）

## 2 衝撃：明清社会経済史とアジア交易圏論

- 明清社会経済史の発展
  - ・ 物価・貨幣・市場構造：銀流入と景気が連動。貯水池モデル（岸本 1997・2013、）
  - ・ 貨幣論：中国の貨幣システム：銀と銅銭。上位市場と下位市場→グローバルな貨幣史（黒田 1994・2003、Kuroda2020）
  - ・ 財政史：原額主義：硬直的な正規の財政と柔軟な非正規の財政（岩井 2004）
  - ・ 法制史：「土地所有」のあり方（寺田 2018）
- ※ 明清地域社会史研究と連動（岸本 1999）
- ※ 近現代史を射程に
  - 清末社会経済史への影響
- アジア交易圏論の衝撃
  - ・ 中国経済史：朝貢貿易システム・海関。近代アジア経済の連続性（濱下 1989・1990）
  - ・ 南・東南アジア経済史：アジア間貿易の高い成長率（杉原 1996）
  - ・ 日本経済史：開港期以降のアジア間競争と日本工業化（川勝 1991）
- ※ 経済史における一国史観、西欧中心史観を批判。
- ※ アジア経済の再評価。アジア各地の相互の関連を重視
  - アジア経済史の確立へ

## 3 反応：近代経済史研究の新展開

- ◎ 近代史の反応
- ネットワーク
  - ・ 東アジアに広がる上海ネットワーク（古田 2000）
  - ・ 華商の通商ネットワークと日本側の対応（籠谷 2000）
  - ・ 総商会ネットワーク（陳 2016）
  - ・ 朝鮮華商：ネットワーク拡大のメカニズム（石川 2016）
- ※ 連続性+ $\alpha$

- 清末史研究
  - ・ 中英商業紛争:英語を話す中国人と商業秩序(地方政府と商業団体)の動揺(本野 2004)
  - ・ 海関:明末~民国期。徴税=取引。(岡本 1999)
  - ・ 沿海住民の零細な活動と経済変動(村上 2013)
- ※ 長期的な「制度」への関心
- 貿易史
  - ・ 東アジア貿易(堀 2009)
  - ・ 海関統計の活用:広域市場圏(木越 2012)

#### 4 近代化=工業化・「民国史」

- 工業史
    - ・ 洋務(鈴木 1992)
    - ・ 綿業(森 2001、久保 2005、富澤ほか 2011)
    - ・ 製糸業(曾田 1994)
  - 南京国民政府
    - ・ 南京国民政府の再評価:関税・幣制改革(久保 1999)
    - ・ 幣制改革の再検討:大恐慌と中国経済(城山 2011)
  - 人民共和国史研究
    - ・ 社会主義体制と地方政府(加島 2018)
    - ・ 東アジア工業化(堀・荻原 2019)
- ※現状に接続→その先は？

#### おわりに 今後の展望と課題

- 課題
  - ・ 中国近現代史内の対話:清末と民国の接続。民国→清末は困難
  - ・ 現状分析との対話(梶谷 2011、加藤 2013・2016)
    - より面白いモデル
  - ・ 英語圏との対話:GHで無視されがちな近代史の重要性
  - ・ 中国語圏との対話:「現状肯定」「発展史」以外の途
  - ・ 1949年以降:一次史料へのアクセス
  - ・ 学生の関心:経済学専攻の経済史・中国への関心、中国史(東洋史)専攻の経済史への関心
  - ・ 日本人の関心:中国(史)の魅力・面白さ
- 日本における中国経済史の可能性(村上 2020)
  - ・ 日本語での先行研究の充実:前近代史の蓄積・アジア交易圏論はGHに先行(村上 2016)
  - ・ 入門書の完備(久保 2012・岡本 2013・水島ほか 2015・久保ほか 2016)

- ・ 史料面での優位（日本語史料・1945年まで）
- ・ 日本という参照軸
- ・ 中国史研究における経済の重要性：政経不可分・経済発展・中国人の関心
- 中国経済の特色とは
  - ・ 制度論：中国は特殊か？西欧・日本と同じではないとしても・・・
  - ・ 比較史→日本・西欧以外との比較
- 現在の取り組み
  - ・ 共同研究：中国の社会経済制度とモデル化（人文研共同研究班）
  - ・ 共同研究：中印比較史

### <参考文献>

- 石川亮太（2016）『近代アジア市場と朝鮮——開港・華商・帝国』
- 岩井茂樹（2004）『中国近世財政史の研究』京都大学学術出版会
- 衛藤藩吉（1968）『近代中国政治史研究』東京大学出版会
- 岡本隆司（1999）『近代中国と海関』名古屋大学出版会
- 岡本隆司（2013）『中国経済史』名古屋大学出版会
- 籠谷直人（2000）『アジア国際通商秩序と近代日本』名古屋大学出版会
- 梶谷懐（2011）『現代中国の財政金融システム——グローバル化と中央—地方関係の経済学』名古屋大学出版会
- 加島潤（2018）『社会主義体制下の上海経済——計画経済と公有化のインパクト』東京大学出版会
- 加藤繁（1952・1953）『支那経済史考証』東洋文庫
- 加藤弘之（2013）『「曖昧な制度」としての中国型資本主義』NTT出版
- 加藤弘之（2016）『中国経済学入門』名古屋大学出版会
- 川勝平太（1991）「日本の工業化をめぐる外圧とアジア間競争」浜下武志・川勝平太編『アジア交易圏と日本工業化 1500-1900』リポート
- 岸本美緒（1997）『清代中国の物価と経済変動』研文出版
- 岸本美緒（1999）『明清交替と江南社会——17世紀中国の秩序問題』東京大学出版会
- 岸本美緒（2013）「明末清初の市場構造——モデルと実態」古田和子編『中国の市場秩序——17世紀から20世紀前半を中心に』慶應義塾大学出版会
- 岸本美緒（2019）「19世紀前半における外国銀と中国国内経済」豊岡康史・大橋厚子編『銀の流通と中国・東南アジア』山川出版社
- 木越義則（2012）『近代中国と広域市場圏——海関統計によるマクロ的アプローチ』京都大学学術出版会
- 久保亨（1999）『戦間期中国<自立への模索>——関税通貨政策と経済発展』東京大学出版会
- 久保亨（2005）『戦間期中国の綿業と企業経営』
- 久保亨編（2012）『中国経済史入門』東京大学出版会

- 久保亨・加島潤・木越義則（2016）『統計でみる中国近現代経済史』東京大学出版会
- 黒田明伸（1994）『中華帝国の構造と世界経済』名古屋大学出版会
- 黒田明伸（2003）『貨幣システムの世界史——〈非対称性〉をよむ』岩波書店
- 桑原隲蔵（1935）『蒲寿庚の事蹟』岩波書店
- 城山智子（2011）『大恐慌下の中国——市場・国家・世界経済』名古屋大学出版会
- 杉原薫（1996）『アジア間貿易の形成と構造』ミネルヴァ書房
- 鈴木智夫（1992）『洋務運動の研究』汲古書院
- 曾田三郎（1994）『中国近代製糸業史の研究』汲古書院
- 田中正俊（1973）『中国近代経済史研究序説』東京大学出版会
- 谷川道雄（1993）『戦後日本の中国史論叢』河合文化教育研究所
- 陳來幸（2016）『近代中国の総商会制度——繋がる華人の世界』京都大学学術出版会
- 寺田浩明（2018）『中国法制史』東京大学出版会
- 富澤芳亜・久保亨・萩原充（2011）『近代中国を生きた日系企業』大阪大学出版会
- 波多野善大（1961）『中国近代工業史の研究』東洋史研究会
- 濱下武志（1989）『中国近代経済史研究——清末海関財政と開港場市場圏』東京大学東洋文化研究所
- 濱下武志（1990）『近代中国の国際的契機——朝貢システムと近代アジア』東京大学出版会
- 古田和子（2000）『上海ネットワークと近代東アジア』東京大学出版会
- 堀和夫（2009）『東アジア資本主義論Ⅰ：形成・構造・展開』ミネルヴァ書房
- 堀和夫・萩原充（2019）『“世界の工場”への道——20世紀東アジアの経済発展』京都大学学術出版会
- 水島司・加藤博・久保亨・島田竜登（2015）『アジア経済史研究入門』名古屋大学出版会
- 村上衛（2013）『海の近代中国——福建人の活動とイギリス・中国』名古屋大学出版会
- 村上衛（2016）「「大分岐」を超えて——K.ポメラントの議論をめぐって」『歴史学研究』949号
- 村上衛（2020）「現代中国と英語圏との対話——経済史」飯島渉編『大国化する中国の歴史と向き合う』研文出版
- 本野英一（2004）『伝統中国商業秩序の崩壊——不平等条約体制と「英語を話す中国人」』名古屋大学出版会
- 森時彦（2001）『中国近代綿業史の研究』京都大学学術出版会
- Kuroda, Akinobu(2020) *A Global History of Money*, Abingdon and New York: Routledge.